

令和元年度（平成31年度） 事業報告書

平成31年4月1日から令和2年3月31日まで

認定特定非営利活動法人 聖地のこどもを支える会

1. 事業の実施状況

すでに100年以上の歴史を持つこのイスラエル・パレスチナ紛争、絡み合った糸はますますもつれ合って、解決の道筋は全く見えない状態が続いている。膠着状態の中で唯一希望の光となり得るのは次世代の子どもたちや若者たちの心に「平和の種」を蒔き続けることである。彼らに正しい人間教育を受ける手助けをし、平和の可能性とかけがえのなさを実感してもらい、平和の作り手、平和のメッセンジャーとしての成長を促す必要がある。正義と公平に基づく平和の実現を目指して、子どもの教育支援、および国際交流による若者の平和教育という当法人のミッションを果たすために努力を継続する。もちろん当法人の活動はごくささやかなものではあるが、継続することに意義があり、いつかは大きな力になると確信している。

しかし、年度末（すなわち今年度1～3月）には新型コロナウイルス感染症拡大の影響を当法人も大きく受けている。

財政基盤

－ 経常収益に関しては、今期は15,160千円（5,123千円減、前年度比 -25.3%減）と大幅な減少となった。これはスタディ・ツアーが中止となり、参加費収入は、前年比4,391千円の減収となったこと、賛助会費が減収となったことなどの影響がある。

－ 経常支出に関しては、17,310千円（3,065千円減、前年度比 15.0%減）であった。人件費負担を考慮し、役職員の報酬・給与の削減を令和2年度より実施し、雇用調整助成金等の申請を行っている。

* 支援者・支援金の推移

－ 認定NPO法人が満たすべき要件として、年間3000円以上を寄付した支援者（賛助会員）が100人以上いることが挙げられる。（パブリックサポートテスト）

当法人は、その要件を以下のとおり満たしている。

項目		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
3000円以上 支援者数（人）	賛助会員	436	415	406	400
	正会員	30	30	28	31
	合計	466	445	434	431
3000円以上 寄付金額	賛助会員	¥ 9,373,575	¥ 9,519,073	¥ 9,090,488	¥ 8,601,109
	正会員	¥ 1,078,000	¥ 2,729,485	¥ 1,442,546	¥ 1,828,300
	合計	¥10,451,575	¥12,248,558	¥10,533,034	¥ 10,429,409

教育支援事業

経済格差がますます顕著になっている現地では、貧困層での就学困難児童が増加している。令和1年度（平成31年）は、支援者の方々のご寄付のおかげで、連帯事務局へは、予算どおり3,200千円送金することができた。

里親制度は、事務作業の繁雑さが伴い、今年も有効な改善策を見つけことはできなかった。それでも、部分的にはあるが個別の学校との直接連絡で、子どもの成長を確かめることができ、当法人のニュースレターで支援者にご報告した。

青少年国際交流事業

1. イスラエル・パレスチナ・日本の若者がつくる《平和の架け橋》2019プロジェクト：

実施期間は、イスラエル・パレスチナ人のためには、8月6日から23日まで18日間、日本人のためには、8月7日から22日までの16日間であった。第一部は仙台・ドミニコ会研修センターで、市民や若者たちとの国際交流、および3.11の大災害および福島原発事故に関する研修（南相馬）。第二部は長野善光寺玄證院で、ボランティア活動、ホームステイなどで市民交流と同時に共同生活と対話。第三部はJICA東京国際センターで、プロジェクトの締め括り、さらに各自平和のメッセージ発信を行った。紛争国の若者たちと日本の若者がともに共同生活をとおして、いのちの大切さと平和への理解を深めること、国境を越えて生まれた友情をもとに「平和共存への道」を歩み始めること。これが本プロジェクトの目標である。この目標は概ね達成できたと考える。

資金調達面では、三菱UFJ国際財団の助成金をいただくことができて感謝している。また支援金募集のためのリーフレットを配布、あるいはNHK解説委員 ████████ による講演会2度を開催し、多くの方からご支援をいただくことができた。しかし結果は多くの思わぬ出費が重なり、しかも諸事情により恒例のチャリティーイベントを実施できなかったため、財政的には厳しかった。
2. イスラエル・パレスチナ スタディ・ツアー《平和を願う対話の旅》

令和2年春に12日間の日程（3月10日～21日）で、学生13名、社会人3名、スタッフ3名で実施予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、出発直前で中止せざるを得なかった。現地の手配はすでに整っており、ホームステイ先も決定していたが、航空券、ホテルなどを含めてすべてキャンセル。このスタディ・ツアー中止による経済的損失は大きかった。このスタディ・ツアー参加メンバーたちの失望は大きかったが、ほとんどのメンバーは次回のスタディ・ツアーに希望をかけている。従ってコロナ終了後、令和3年3月にはもう一度計画を立て直し、実施を試みることにする。

普及啓発事業

イスラエル・パレスチナ紛争に関心がある日本の支援者に対して、現地情報を発信することは当法人の根幹事業の一つであり、そのためには情報収集が欠かせない。今年も現地スタッフ、およびすでに当方の活動に参加したOB/OGの協力を得て、記事やレポート、写真などを提供してもらった。それらの資料は、イベント、ホームページ、ニュースレター、SNSなどを通じての情報発信事業のために大いに役立った。また1月に ████████ がエルサレムに数日間滞在し、いくつかの学校訪問、現地の人々との人脈再構築、令和2年度プロジェクト参加者の選定に努めた。

2. 事業に関する事項

(1) 教育支援事業

事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲と人数	事業費(千円)
今年度は予算どおり、320万円の教育支援金を送付した。現地の連帯事務局を経由する里子とのコンタクトは容易ではなく、里親の方に多くの情報を伝えられない困難がある（エフエタ学院などある学校は協力的）。パレス	8月 1月 3月	法人 事務局	3名	イスラエル・パレスチナの子どもたち 約200名	4,172

チナ経済の疲弊、就学困難児童数増加のため、継続的な支援者を増やす必要がある。					
--	--	--	--	--	--

(2) 青少年国際交流事業

1) イスラエル・パレスチナ・日本の若者がつくる《平和の架け橋》2019プロジェクト

事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲と人数	事業費(千円)
プロジェクト立ち上げと協力体制確立：今年度の青少年国際プロジェクトは、仙台、長野と東京で実施した。共催は例年のようにヨハネ・パウロ2世財団。後援はJICAと駐日パレスチナ総代表部と駐日イスラエル大使館である。仙台・長野での宿泊についてはそれぞれドミニコ会研修センター、長野善光寺玄證院、JICA東京国際センターのご協力をいただいた。	4～6月	法人事務局	15名	プロジェクト参加者12名	4,409
プロジェクト資金調達： ◆ 助成金：三菱UFJ国際財団 ◆ 支援お願いパンフレット作成・配布。 ◆ 講演会:NHK解説委員による講演。 (広報もかねて) パンプ作成・配布 入場無料にして、自由献金とした。 吉祥寺教会およびイグナチオ教会で同日開催。	2～5月 7月14日	法人事務局	15名	一般市民と学生 不特定多数 イベント参加者 約250名	
プロジェクト参加者募集と選出： ☆ 日本側：インターネットおよびメールで参加希望者募集。小論文と面接により3名選出。 ☆ イスラエル・パレスチナ側： イスラエル・パレスチナから9名+引率者1名。	4～6月	法人事務局 エルサレム	7名	日・イ・パ参加学生 およびリーダー・引率者 計20名	
事前研修： ☆ 日本のプロジェクト参加者のために：イスラエル・パレスチナ紛争の現状を学んでもらう。 ☆ イスラエル・パレスチナ参加者のために：同様に日本について、また「平和」のための本プロジェクトに参加する意義について学んでもらう。	日本 6月・7月 イス・パレ 6月 (2回) (日帰り)	JICA 東京国際センター エルサレムと テルアビブ	9名	日・イ・パ参加学生 およびリーダー・引率者 計20名 大人参加者 数名	
「平和の架け橋プロジェクト」実施 1. 共同生活：2週間の共同生活の中で、「平和共存」の可能性を体験し、友情の絆を結ぶことができた。日本人はとくに、仲介役として、「信頼関係の醸成」について学び、実践できた。 2. 国際文化交流：仙台・長野市民との国際交流、ホームステイ、ボランティア活動。 3. ワークショップと対話：仙台・長野での交流やボランティア活動の体験、紛争体験を共有し、平和構築の具体的な「道」は何かをともに考えた。 4. 福島・原発事故被災地の現状を知るため、南相馬訪問 5. 成果の発信：一般市民のために仙台と長野や東京で報告会や交流会を行い、平和と希望のメッセージを発信し、平和構築のために働く決意を表明した。	8月	仙台 ドミニコ 研修の家 長野 善光寺 玄證院 JICA 東京国際 センター	30名	長野市民 日・イ・パ 参加学生 および リーダー・引率者 計20名 大人参加者 数名	

事後研修： 日本でもイスラエル・パレスチナでも、プロジェクト全体を振り返り、得た実りを深め、次の行動につなげるために日帰り研修を行った。	9月	JICA 東京国際 センター エルサレム	6名	参加者16名 リーダー OB/OG数名
報告書作成およびオリーブの木発行、およびHPに掲載 本プロジェクトの総括、実施のあらまし、参加者の感想、収支決算などについての報告書を作成、関係団体やプロジェクト支援者にお送りした。またオリーブの木に抜粋を掲載し、全支援者にお送りした。	9～11月	法人 事務局	10名	プロジェクト参加者 関係団体 支援者約2000名

2) 「平和を願う対話の旅」イスラエル・パレスチナ スタディ・ツアー2020

事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲と人数	事業費(千円)
スタディ・ツアー参加学生の募集と選出： ☆ 募集要項作成・HPやインターネットを利用して募集した。 ☆ 応募者の面接および選出 計15名 (OB/OG 数名も含める) ☆ 大人の参加者も募集した。 3名	11月～ 12月	法人 事務局 JICA 東京国際 センター	5名	スタディ・ツアー 参加学生 10名 大人3～4名	339
スタディ・ツアー参加学生の事前研修：JICA ☆ イスラエル・パレスチナ紛争の歴史と現実、それぞれの社会が抱えている問題を学ぶ。研究発表、ワークショップなど。 ☆ 事前研修の企画・実施などについても極力、すでに体験した学生たち(OB/OG)の自主性とイニシアティブにまかせた(彼らのさらなる成長のため)。	1月中旬	JICA 東京国際 センター	5名	事前研修 参加学生大人 13～14名 OB/OG 数名	
スタディ・ツアー「平和を願う対話の旅」実施 ☆ 分離の壁、検問所、家屋破壊、難民キャンプなど紛争の実態を体験・体感。学校、福祉施設などを見学して教育事情を理解する。とくに、紛争に苦しむ双方の人々とのふれ合いを大切にしたい。 ☆ エルサレム、ベツレヘム、テルアビブでのホームステイを通して現地の人々の生活にふれる。 ☆ 現地の若者をミーティングや死海エクスカージョンなどに招待し、交流や対話の場を設ける。 しかし上記の計画は、新型コロナウイルスの拡大、フライトキャンセル、イスラエル入国禁止などで、すべて実施不可能となった。	3月 (13日間)	イスラエル パレスチナ	5名	日本人学生 12名 大人6～7名 伊・パレでの 協力者 約100名	

(3) 普及啓発事業

事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲と人数	事業費(千円)
例年のように、年4回本会紹介パンフレットおよびニュースレター「オリーブの木」を発行配布し、本会の活動、並びに現地の子どもの現状を報告した。	5月 8月 11月 2月	法人 事務局	20名	全国支援団体 および支援者 延べ約3500名 他不特定多数	1,977
HPに随時本会の活動内容を掲載し、イスラエル・パレスチナ紛争のホットニュースを正義と公正と和解を目指す立場から紹介した。HPをより分かりやすくアピー	年間常時	法人 事務局	5名	一般市民 不特定多数	

ル力があるようにさらなる改善を加える。さらにSNSなどインターネット上の発進力を強化。				
国際協力NGOセンター（JANIC）、JICA Partner、NGO Network Japan、その他を通じ、NGO/NPO活動に関する情報収集やWEB上での広報活動、および募金活動を行う。	年間常時	法人 事務局	3名	一般市民 不特定多数
インターネット、メディアを通じて、イスラエル・パレスチナ情勢に関連する情報の収集活動を行う。	年間常時	法人 事務局	3名	一般市民 不特定多数
青少年国際交流プロジェクトやスタディツアーの報告会開催。また早稲田大学学生寮で、プロジェクトOB/OGが、自分たちが当法人の活動に参加して受けたインパクトなどについて話した。学生たちの進路選択の参考のためである。	11月	随所	15名	早稲田大学 学生 約50名
エルサレム聖墳墓教会首席オルガニスト、ヤクープ・ガザウィによるパイプ・オルガンコンサートを4回開催。入場料は無料。自由献金としていただいたお金は教育支援金として、あるいは青少年の平和教育に使った。聴衆の方に当法人の主旨や活動の紹介をする機会でもあった。	8月9月	仙台 東京 横浜	5名	一般市民 約600人

決 算 報 告 書

第 15期

自 2019年 4月 1日

至 2020年 3月31日

特定非営利活動法人聖地のこどもを支える会

東京都中野区東中野5-8-7-502

活動計算書

【税込】(単位:円)

特定非営利活動法人聖地のこどもを支える会

自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月31日

【経常収益】			
【受取会費】			
正会員受取会費	508,000		
賛助会員受取会費	7,113,042	7,621,042	
【受取寄付金】			
受取寄付金	3,179,493		
施設等受入評価益	1,620,000		
ボランティア受入評価益	120,000	4,919,493	
【受取助成金等】			
受取助成金	477,808		
受取補助金	700,000	1,177,808	
【事業収益】			
参加料金収益		1,406,914	
【その他収益】			
受取利息	12		
為替差益	488		
雑収益	34,500	35,000	
経常収益計			15,160,257
【経常費用】			
【事業費】			
(人件費)			
給料 手当(事業)	1,852,689		
ボランティア評価費用	120,000		
人件費計	1,972,689		
(その他経費)			
業務委託費	124,385		
諸謝金	844,121		
印刷製本費(事業)	459,781		
会議費(事業)	32,162		
旅費交通費(事業)	1,367,519		
旅費海外(事業)	1,445,180		
車両費(事業)	61,397		
通信運搬費(事業)	721,528		
消耗品費(事業)	199,795		
貸借料(事業)	259,995		
施設等評価費用	180,000		
租税公課(事業)	2,400		
支払手数料(事業)	28,418		
支払助成金	3,197,950		
その他経費計	8,924,631		
事業費計		10,897,320	
【管理費】			
(人件費)			
役員報酬	2,340,000		
給料 手当	979,329		
法定福利費	396,269		
退職給付費用	12,000		
通勤費	197,394		
人件費計	3,924,992		
(その他経費)			
印刷製本費	6,600		
会議費	25,908		
旅費交通費	95,454		
通信運搬費	235,553		
消耗品費	347,190		
水道光熱費	60,000		
事務所家賃評価費用	1,440,000		
広告宣伝費	31,804		
諸会費	40,000		
租税公課	800		
支払手数料	196,304		
為替差損	8,642		
雑費	400		
その他経費計	2,488,655		
管理費計		6,413,647	
経常費用計			17,310,967
当期経常増減額			△ 2,150,710
【経常外収益】			
経常外収益計			0
【経常外費用】			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			△ 2,150,710
経理区分振替額			0
当期正味財産増減額			△ 2,150,710
前期繰越正味財産額			2,448,959
次期繰越正味財産額			298,249

【活動計算書の注記】

貸借対照表

特定非営利活動法人聖地のこどもを支える会
全事業所

[税込] (単位: 円)
2020年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	515,449
現 金	57,098	前 受 金	501,000
現金 外貨	236,238	預 り 金	77,066
郵便 貯金	528,111	流動負債合計	1,093,515
普通 預金	421,606	【固定負債】	
現金・預金 計	1,243,053	退職給付引当金	12,000
(有価証券)		固定負債合計	12,000
有価 証券	6,121	負債合計	1,105,515
有価証券 計	6,121	正 味 財 産 の 部	
(その他流動資産)		前期繰越正味財産	2,448,959
前払 費用	61,580	当期正味財産増減額	△ 2,150,710
短期貸付金	93,010	正味財産合計	298,249
その他流動資産 計	154,590		
流動資産合計	1,403,764		
資産合計	1,403,764	負債及び正味財産合計	1,403,764

【貸借対照表の注記】 短期貸付金：クレジットカード経由寄付金の内未入金分を計上
 未払金：給与等未払額を計上
 前受金：翌年度分受取寄付金を計上
 預り金：職員源泉徴収税額等を計上
 退職給付引当金：職員退職給付費用累計を計上

財務諸表の注記

特定非営利活動法人聖地のこどもを支える会

2020年 3月31日 現在

【重要な会計方針】

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 2017年12月12日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

- | | |
|-------------------------------|--------|
| (1). 棚卸資産の評価基準及び評価方法 | 該当なし |
| (2). 固定資産の減価償却の方法 | 該当なし |
| (3). 引当金の計上基準 | 評価額を計上 |
| (4). 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理 | 評価額を計上 |
| (5). ボランティアによる役務の提供 | 評価額を計上 |
| (6). 消費税等の会計処理 | |

当法人は、消費税対象収益が1千万円以下の免税事業者で、消費税相当額を区分しておりません。

【会計方針の変更】 該当なし

【事業費の内訳】 事業費の区分は別紙の通りです。

[税込] (単位: 円)

科目	教育支援 (里親) 事業	平和の架け 橋プロジェクト	平和を願う 対話の旅	普及啓発事 業	管理	合計
(人件費)						
給料 手当(事業)	759,532	492,800	240,416	359,941		1,852,689
ボランティア評価費用		120,000				120,000
人件費計	759,532	612,800	240,416	359,941	0	1,972,689
(その他経費)						
業務委託費		117,035		7,350		124,385
諸 謝 金	125,000	260,964		458,157		844,121
印刷製本費(事業)	70,625	66,410		322,746		459,781
会 議 費(事業)		6,986		25,176		32,162
旅費交通費(事業)		1,318,799		48,720		1,367,519
旅費海外(事業)		1,445,180				1,445,180
車 両 費(事業)		61,397				61,397
通信運搬費(事業)		127,100		594,428		721,528
消耗品 費(事業)		138,079		61,716		199,795
賃 借 料(事業)		69,635	98,450	91,910		259,995
施設等評価費用		180,000				180,000
租税 公課(事業)		2,400				2,400
支払手数料(事業)	19,123	1,841	440	7,014		28,418
支払助成金	3,197,950					3,197,950
その他経費計	3,412,698	3,795,826	98,890	1,617,217	0	8,924,631
合計	4,172,230	4,408,626	339,306	1,977,158	0	10,897,320

【施設の提供等の物的サービスの受入の内訳】 1泊1名1500円としております。

[税込] (単位: 円)

内容	金額	算定方法
施設等受入評価益	180,000	12名×10泊×¥1,500
施設等受入評価益	1,440,000	¥120,000×12か月

【活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳】

1日1名1時間1000円としております。

[税込] (単位: 円)

内容	金額	算定方法
ボランティア受入評価益	120,000	1名×12時間×10日×¥1,000

【使途等が制約された寄付等の内訳】

[税込] (単位: 円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
教育支援(里親)事業	-	4,122,922	4,172,230	-49,308	賛助会費等で補填
平和の架け橋プロジェクト	-	1,775,993	4,408,626	-2,632,633	"
普及啓発事業	-	506,599	1,977,158	-1,470,559	"
合計	-	6,405,514	10,558,014	-4,152,500	

【役員及びその近親者との取引の内容】 役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

[税込] (単位: 円)

科目	財務諸表に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び支配法人等との取引
(活動計算書)			
諸 謝 金	844,121	254,000	-
活動計算書計	844,121	254,000	-

【その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項】 該当なし

財 産 目 録

特定非営利活動法人聖地のこどもを支える会
全事業所

【税込】(単位：円)
2020年 3月31日 現在

《資産の部》

【流動資産】

(現金・預金)

現 金 57,098

現金 外貨 236,238

郵便 貯金 528,111

普通 預金 421,606

現金・預金 計 1,243,053

(有価証券)

有価 証券 6,121

有価証券 計 6,121

(その他流動資産)

前払 費用 61,580

短期貸付金 93,010

その他流動資産 計 154,590

流動資産合計 1,403,764

資産合計

1,403,764

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金 515,449

前 受 金 501,000

預 り 金 77,066

流動負債合計 1,093,515

【固定負債】

退職給付引当金 12,000

固定負債合計 12,000

負債合計 1,105,515

正味財産

298,249

【財産目録の注記】 貸借対照表に同じ

令和元年度 年間役員名簿

平成31年 4月 1日から 令和2年 3月 31日まで

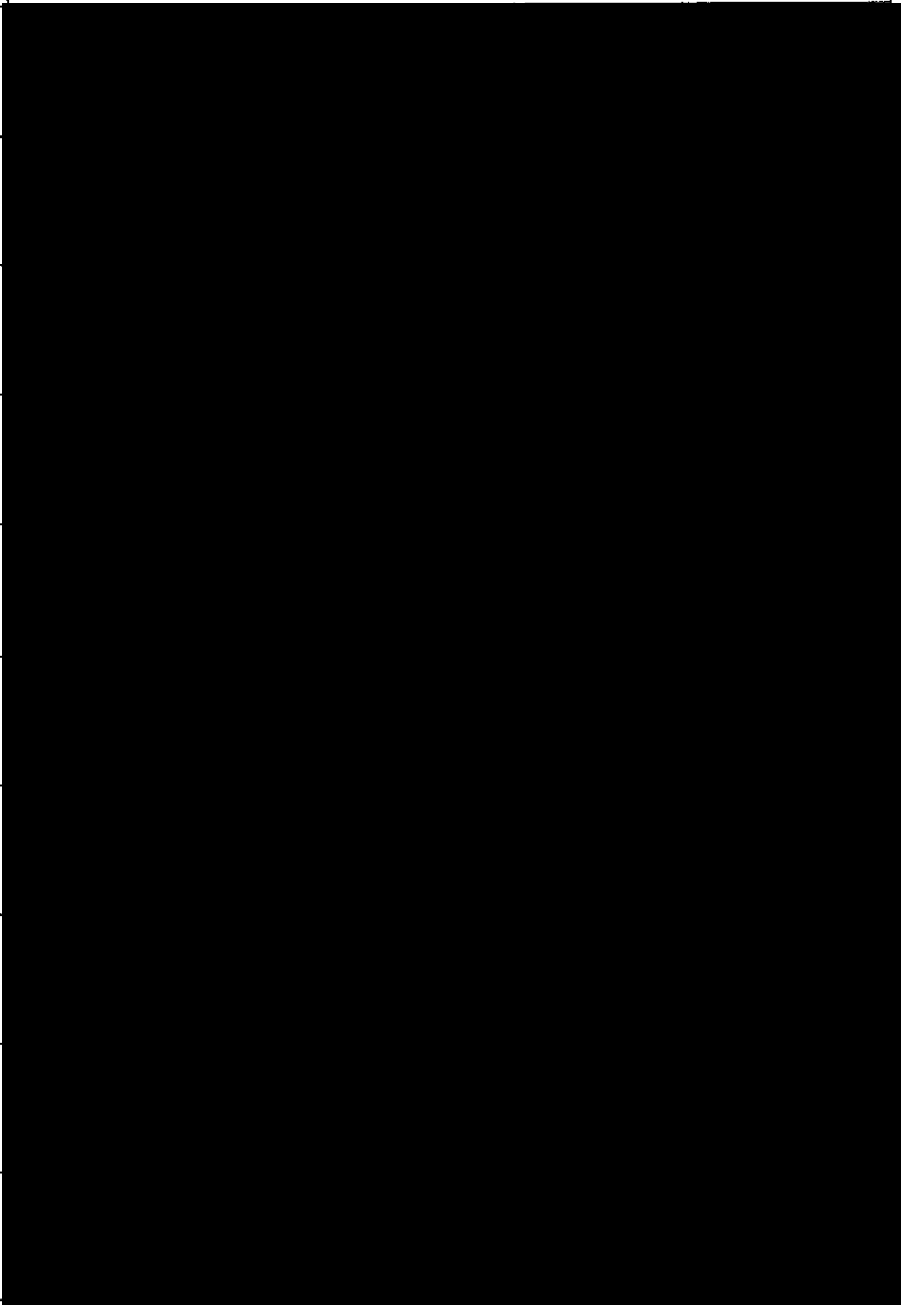
特定非営利活動法人 聖地のこどもを支える会

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事	井上 弘子		平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日
理事	野口 裕之		平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	中山 夕里亜		平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	田制 則子		平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	佐藤 克裕		平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	村上 宏一		平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	福島 貴和		平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	平木 朋世		平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
監事	佐多 保彦		平成31年4月1日 ～ 令和2年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日

社員のうち10人以上の者の名簿

令和 2年 3月 31日現在

特定非営利活動法人 聖地のこどもを支える会

	氏 名	住 所 又 は 居 所
1	井上 弘子	
2	磯部 雅子	
3	山田 康子	
4	倉田 昌子	
5	小西 一枝	
6	小西 羊一	
7	佐多 保彦	
8	中山 宏	
9	野坂 静子	
10	横道 昭光	
11		
12		